

**市制施行 60 周年記念 第 4 回更級日記千年紀文学賞の受賞作を発表**

「更級日記」の作者・菅原孝標女が帰京のため、上総国府（現在の市原市）を出発した 1020 年から数えて、千年の節目に当たる 2020 年に市では『更級日記千年紀文学賞』を創設しました。今回も、市原市内、千葉県内はもちろん、北は北海道や南は九州からも応募があり、優れた作品が集まりました。

この度、第 4 回の受賞作が決定しましたので発表します。

**1 応募総数**

(1) 一般の部

113 点(小説 85 点、エッセイ(紀行文を含む)28 点)

(2) 小中学生の部

2,553 首(「空」をテーマとした短歌：小学生 1,433 首、中学生 1,120 首)

2 選考委員・受賞作品・受賞者・大賞受賞者コメント・講評

別紙のとおり

3 受賞作品の閲覧

一般の部の受賞作品は、市ウェブサイトで公開します。

公開予定日：令和 6 年 8 月 27 日(火)15 時から

URL：<https://www.city.ichihara.chiba.jp/article?articleId=66c059858d9eb90cd6011ba7>

4 授賞式

日時：令和 6 年 12 月 7 日(土)13 時 30 分から

場所：市原市市民会館小ホール

出席者：市長、教育長、椎名誠選考委員長

【別紙】選考委員・受賞作品・受賞者一覧・大賞受賞者コメント・講評

【選考委員】

(1) 一般の部

○選考委員長 椎名 誠(作家)

○選考委員(五十音順)

加賀美 幸子(エッセイスト【元 NHK アナウンサー】)

岸本(下尾) 静江(作家、市内在住)

竹下 亜紀(小学館編集者)

(2) 小中学生の部

市原歌人会



椎名誠選考委員長

【受賞作品・受賞者一覧】

<一般の部：小説>(敬称略)

賞	題名	作家名	住所
大賞	更級学生寮	久保 協一	岩手県盛岡市
優秀賞	しあわせのかたち	岸田 一彦	千葉県市原市
選考委員特別賞	復活水神水鏡 <small>すいじんみずかがみ</small>	今泉 富士夫	千葉県市原市
	いちはら恋歌 <small>れんか</small>	小野 みふ	東京都足立区

<一般の部：エッセイ(紀行文を含む)>(敬称略)

賞	題名	作家名	住所
大賞	癒しの小さな旅	大久保 昇	東京都葛飾区
優秀賞	サタデースイマー	<small>あがた</small> 縣 鶴之介	千葉県
	厄介者の生き方	後藤 里奈	東京都杉並区
選考委員特別賞	天白醤油物語 <small>てんぱく</small>	奥津 真理	千葉県市原市

<小中学生の部：小学生> (敬称略)

賞	短歌作品(下段は 氏名、学校所在地、学校名・学年(応募当時))
大賞	青空にそびえたつのは積乱雲おってくるなとペダルふむ僕
	三浦 ^{しゅうすけ} 宗左 千葉県市原市 市原市立京葉小学校 6年
優秀賞	いつの日かわたってみたいな七夕に夜空にかかるカササギの橋
	三浦 ころろ 千葉県市原市 市原市立国分寺台西小学校 4年
	ぼくが泣くそれとは逆に青空がぼくをはげます「前に進め」と
	久永 ^{ゆうと} 悠斗 千葉県市原市 市原市立ちはら台桜小学校 6年
佳作	あの空をおぼえていたいいつまでもさいごのしあい ^{みな} 皆をなかせた
	早坂 ^{こういち} 煌一 千葉県市原市 市原市立菊間小学校 6年
	道端にきれいに咲いた彼岸花空から見てねおじいちゃん
	鈴木 ^{ほまれ} 誉 千葉県市原市 市原市立八幡小学校 5年
	マスクなしみんなの顔が光ってるこんな世界が続くといいな
	中村 桜子 千葉県市原市 市原市立千種小学校 6年

<小中学生の部：中学生> (敬称略)

賞	短歌作品(下段は 氏名、学校所在地、学校名・学年(応募当時))
優秀賞	異国でのファーム体験秋の空叱られるのもなんだか楽し
	^{そめや} 染谷 真由 茨城県土浦市 常総学院中学校 3年
	空見上げ探してしまうあの顔をもう会えぬ母の笑った顔を
	^{みのうら} 箕浦 樹里 愛知県名古屋市 名古屋市立山田東中学校 2年
	夕空に初めてつないだあなたの手誰とも違う温もりがある
	^{はる} 池畑 遥琉 千葉県市原市 市原市立五井中学校 2年
佳作	「いってきます」少し不安な入学式私を照らす快晴の空
	寺田 葵 千葉県市原市 市原市立辰巳台中学校 2年
	空見上げ夢を誓った小さな手拳の向こうに数千の星
	渡辺 かずは 岐阜県加茂郡川辺町 川辺町立川辺中学校 3年
	秋の空ボールけりぬくどこまでも気合じゅうぶん勝利のために
	^{わたる} 市川 航 千葉県市原市 市原市立菊間中学校 1年

※大賞は受賞作なし

【一般の部大賞受賞者コメント・講評】

<小説>

「更級学生寮」久保 協一

(岩手県盛岡市 76歳)

受賞のお知らせをいただき、嬉しさより、どうしてこの俺が、という驚きを抱きました。半世紀以上も前の微かな記憶を辿り、思いつくまま文字を連ねた拙作に、審査員の先生方がお目通しく下さいましたこと、誠にありがたく、深く感謝申し上げます。また、このような素晴らしい発表の機会を与えて下さいました関係者の皆様、本当にありがとうございました。



<エッセイ(紀行文を含む)>

「癒しの小さな旅」大久保 昇

(東京都葛飾区 56歳：応募当時)

このたびは大賞を受賞させていただき、誠にありがとうございました。両親のいない悲しみと仕事疲れを癒やすために市原市の旅に出ました。小湊鉄道の駅員さんやぞうの国のスタッフの方々に親切にさせていただき心が癒やされました。この受賞を励みに今後もエッセイを書き続けたいと思います。

このたびは本当にありがとうございました。



<講評>

椎名誠選考委員長

小説、エッセイそれぞれのジャンルにバランスよく力のこもった作品が集まった。本賞も四回目となるとこれまでに応募歴のある人の作品も増えてきて、なかなか魅力的な作品が揃ってきた。

エッセイ部門の大賞「癒しの小さな旅」は清掃管理者として働く一人身の「私」が日々の生活や仕事から堆積している疲れを感じ、市原の主にぞうの国に癒しを求めて旅に出る。この小さな旅で出会った様々な人および動物との出会いの記述がとても丁寧でしみじみ感動する。こういう真面目で真摯な生き方をしてきた作者の人生に喝采を送りたい。

小説部門の大賞「更級学生寮」は非常に素直にストレートに、そして正しい視線で捉えたささやかなヒストリー。今回は小説、エッセイ部門で教科書のようなまっすぐな視線でとらえた作品が多く目についたが、本作品はその代表をいくもの。地方都市の新聞販売店のシステムを知ると同時に、その経営していく難しさと喜びを心地よく堪能した。

【小中学生の部大賞受賞者コメント・講評】

<小学生の部>

青空にそびえたつのは積乱雲おってくるなとペダルふむ僕

三浦 宗左^{しゅうすけ}（市原市立京葉小学校 6 年：応募当時）

大賞をとれたと聞いて、とてもおどろきました。短歌を初めて作ってみて、音の数にあわせて単語を探して組みあわせるのが楽しかったです。

今年の夏休みも、雨にも夏の暑さにも負けずにたくさん遊ぼうと思います。



<講評>

市原歌人会

真夏の青空 ムクムクとわく入道雲「僕」は青田中の路を懸命に自転車でいきます。

遠くからゴロゴロというおとも聞こえてくるような……走れ、走れ、逃げろ、にげろ！ビルの林立する都会では決して体験できないし、このような勢いのある作品も出来ないでしょう。実体験からの秀作。